

Title	マッカーティ著 横溝直二訳 アメリカ経済地理
Sub Title	
Author	小島, 栄次
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1943
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.37, No.2 (1943. 2) ,p.151(75)- 155(79)
JaLC DOI	10.14991/001.19430201-0075
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19430201-0075">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19430201-0075</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

な研究が望まれるのである。しかしかかる注文は姑く措くとして、著者が日本地方財政の特質といふ未開拓の分野の着實なる研究に志し、その成果をみたことを、私は著者と共に喜び度いと思ふ。(岩波書店刊行、二四六頁)。

マッカーティ著 横溝直二譯

## 「アメリカ経済地理」

小島 榮 次

アメリカは一億三千万の大人口と吾邦内地に二〇倍する國土とを持つ。この大人口の構成が民族的に複雑であつて、同國の社會・經濟問題の重要な根源をなして居る。それと同様にこの廣大な國土も種々の異質的部分を以つて構成されて居り、それが地域と地域との間に重大な問題を胎むことも當然に考へられるところである。氣候・地形等の自然的條件が著しく異なるが爲めに、或は開發の歴史を異にする爲め、更に或は經濟的中心地への距離の著しき差異等の爲めに、アメリカ國內各地方の間には經濟生活上高度の地域的特殊化・専門化が生じて居る。今後、南北戦争のやうな大破裂はないとしても、地域間に重大な問題の根源を醸して居ることは明白である。斯かる理由に依つてアメリカ經濟の地域的構成を研究するのが、即ちアメリカの經濟地理的研究であり、ここに紹介する「アメリカ經濟地理」(Harold Hull McCarty, The geographic basis of American economic life. xxiii + 702 pages. Harpers & Brothers, New York, 1940.) はまさにその譯書名の通りの内容を持つ研究である。本邦に於ては、アメリカに對するこの種のしかも同國全土にわたつて纏められた研究が絶無であつた。そこに紹介の第一の理由が

あるし、従つてまた譯者の勞は大いに多とされねばならぬ。

## 二

然し乍ら紹介の理由はこれだけではない。第二の理由として、本書が經濟地理學的に興味の深いことを挙げねばならぬ。

著者は本書の初頭、總論的な部分に自己の地理學従つてまた經濟地理學に對する見解を述べ、次にアメリカ全國を十地域に分つて敘述して居る。大體、大學豫科程度の教科書であり、極めて平易な言葉遣ひや適切な事例や獨特な表現に據つて述べられて居る。その立場は云ふまでもなく地域性記述を目的とするものであるが、著者は更に次の如く云ふ。「地域なるものは國民經濟生活の量的及び分析的記述を行ふ基礎としての一ケの骨組となる。棉花栽培の支配するのはいかなる地域であるかを知ることは重要であるが、またどれだけ栽培されるか、いかに栽培されるか、何故そこに栽培されるかをも我々は知らうと欲するのである。」(譯書二三頁)斯かる立場に就いては筆者も同感するところが多いのだが、然るに奇怪なのは斯かる立場がまだ地理學界に確乎たる地位を占めてないのかと考へられることである。アメリカの *Economic Geography* 誌・一九四〇年一〇月號に於ける書評の中に、この書は「アメリカ經濟生活の地域的基礎」としたほうがよかつた。何となればそれは、多くの地理學者が彼等の研究の多くに使用し大なる成功を收め得たところの既に因習化された地域的取扱を行ふものだからである。その記述及び基本原理は本質的に經濟學的であり、經濟學者の見地から書かれ、地理學なる學問に對する經濟學者の理解を以つて書かれて居り、本書は基本的にすら地理學的だとも云へない。(同誌四四四頁)といふ一節が見出される。マッカーティや私の見解では地域的個性乃至特殊性の記述が即ちそれ自體地理學的なものである筈だから、この書の題を右の如く

訂正せねばならぬ必要もないし、またこの書が基本的にすら地理學的でないといふ筈はない。察するところ右の評者は地理的を自然的と同義に解する人であり、本書が自然現象を經濟現象の環境としてのみ取扱つて、アメリカ經濟全體に對する自然現象の影響を特に取上げないことに不満なのではあるまいか。私のこの想像は當つてないかも知れない。然し本書がひと頃本邦でも有力であつた「地人相關論」の立場に對して、明瞭に地域的特殊性記述の立場を探り、しかもその地域の説明を環境論的考察に求めて居る點、私として頗る同感であるといふ理由だけでなく、右のやうに經濟地理學者の重要機關誌に於いて、頗る烈しい批評を蒙つて居る。これはこの書の内容が私にとつて同感出来るものであるに拘らず、地理學界には未だ相當議論を呼ぶものたることを示すと解釋する。以上が本書紹介の第二の理由である。

## 三

勿論本書にもいろいろの不満はある。その主なものを二三挙げてみれば、第一に、この激動期にあるアメリカの經濟地理書としてしかも一九四〇年刊行のものとしては、激動の様相を察知すらせぬ點に甚しい物足りなさがある。これは著者が自由營利經濟に於ける或る均衡下の状態としてアメリカ國土を取扱ひ、政策や經濟外の諸事情を排除して居ることに基く。斯くして例へばテネシイ溪谷開發事業に就いても、ステュアート・チェーズ等があれ程大きく評價したに拘らず、約十行を與へて居るに過ぎない。(四三六頁)これはまた、動態的考察が不十分なこととも關聯して居り、過去の變化・殊に將來の變化を考察する場合、國土計畫・農地開發事業・殖林事業・交通施設の變化等は是非とも考慮されねばならぬ事項に屬する。

その他、本書には統計表が少いことも不満の一つである。各種統計を自由に豊富に見られるアメリカでなら、そ

れ等統計表が却つて余計なものだつたかも知れぬが、日本の讀者としてはそれも入れて貰ひたかつた。

## 四

最後に譯書に就いて一言すれば、遺憾ながら高く評價することが出来ない。若干個所を部分的に原文と對照して見たに過ぎぬが、不十分な譯・脱漏・誤譯などが少からずあるやうに感ぜられた。例へば不十分な場合として、「經濟學の根本概念は地理學的地域による生産の専門化にある。」(五頁、原文は「經濟學の二基本概念は各地域による…」原書三頁)或は「大平原の『朝食用焼肉と馬鈴薯』地帯から來た筋骨逞しい大男が…」(六七頁、原文は「大平原の朝食から焼肉と馬鈴薯を食べる地帯から來た…」原書五七頁)といふところがあり、脱漏の場合としては、「我々の目的は現在の自然的人間の資源に關聯しつゝ、合衆國經濟生活の地理的分布を敘説することである。余りに詳細な再検討を行ふことによつて機能上の典型を見失ふ危険を避けるため、我々はそれを詳細に敘述するよりも各地域の經濟生活の特質を求めたいと思ふ。この結果を得るには我々の注意を重要産業と思はれるもの、國民經濟の種々の地理的成層中の推進力と思はれるものに集注することによつて可能となる。」(一二二頁)といふ個所が實は、「(前略)、我々は各地域の經濟生活を詳細に敘述するよりもその特質を求めようとする。我々はせいぜい作業服型アメリカ經濟生活だけの追究を希望し得るに過ぎぬ。この結果を最もよく達成することは、我々の注意を鑛産業と思はれるものに(以下略)」(原書九三頁)となつて、重要な一句が抜けて居ることが指摘される。誤譯としては六七頁は「アメリカは都市國家となつたのである」といふ個所がある。原語は Urban nation 都市的な國或は都會的な國とでも譯すべきであらう。また五一頁に、「太平洋諸州はアメリカ經濟生活の三大輪形圏から山岳や平野によつて遠く隔離された一大經濟帝國として認められねばならぬ。しかし單なる第二次的存在ではない。」とあるが、三大輪形圏の原語は

big three-ring circus. 第二次的存在のそれは、sideshow である。前者は大規模サーカスだから中央舞臺とか檜舞臺とか譯し、後者を田舎舞臺とでも譯して置いて何故悪いのであらうか。著者は決して三といふ數を活かして居るのだとは思はれない。また、これは誤譯に屬しないかも知れぬが、Type を常に形態と譯して居るのは、少くとも普通の用語ではなからう。これ等の他、上記の譯の不十分や脱漏が重なつた個所もあり、例へば次のやうな重要な一節がその爲めに意味不明瞭となつて居る、即ち「自然地理學者にとつては地域とは一般的性質に於ては隣接區域とは相違するが實質的には同一性を有つ區域をいふ。」(五頁)とあるのは、「自然地理學者にとつては、地域とは地形上相當の類似性を持つ區域であり、且つまたその區域の地形が一般的特徴に就いて隣接區域のそれと相異なるものをいふ。」(原書、三頁)の意である。

以上、譯者に對する不満を述べたが尙、出版書肆として、原著の卷頭にある地形圖及び地域區劃圖、卷中に挿入された二四頁の鮮明な寫眞版を削除したこと、譯者と共同責任あるものとして不満を表して置く。殊に地域區劃圖の一枚だけは是非とも入れるべきであつた。改版の際、譯者及び書肆が共に本書内容の改善に努力されることを期待する。(生活社、昭和十七年十月二十日發行、八四二頁、定價八圓)